

四街道子どもブックリスト（小学校高学年用）

小学校
高学年
のみなさんへ

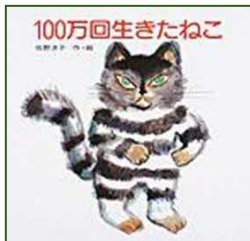
イチ推しの本!



よつかいどうし 四街道市がオススメする本です。ここにのっている“**おほん**”を、ぜひ読んでみてください!

100万回生きたねこ

佐野洋子（講談社）



100万回も生まれかわったねこ。100万回死んでも、ねこは悲しくありませんでした。でも白い1匹のねこに出会って、ねこは…。

赤毛のアン

ルーシー・モード・モンゴメリ（集英社 他）



手違いで老兄妹のもとへ引き取られた孤児のアン。想像力豊かでおしゃべりが好きなアンにみんなが引き込まれ、周りのかたくなな大人の心をほぐしていきます。

あなたが世界を変える日

セヴァン・カリス・スズキ（学陽書房）



12歳の少女が語った、世界の人々の心に届くスピーチは環境問題でした。子供だからこそ見える、ありのままの世界を読むことができる本です。

いのちのバトン

日野原重明（ダイヤモンド社）



私たちに「命とは」と問いかけ考えさせてくれる本です。目には見えない命・心の大切さに気付くことができるかもしれません。

絵で読む 広島原爆

那須正幹（福音館書店）



生き残った人の証言や手記、取材をもとに再現された広島町の町と人々の暮らしを描いた科学絵本。平和な町のすがたが一変するさまを見開きの再現図が伝えてくれます。

おーいぼほんた

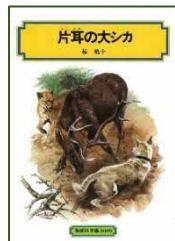
茨木のり子他（福音館書店）



詩と俳句と短歌166篇からなる詩歌のアンソロジーです。「万葉集」から現代詩まで幅広く、詩の世界を満喫できます。

片耳の大シカ

椋鳩十（偕成社）



屋久島の大自然に生きるシカの群れのボス片耳の大シカ。大雨で人間が逃げ込んだ洞穴に片耳の大シカたちがいました。そこでみせた大シカの姿は…。

金子みすゞの本

金子みすゞ（JURA出版局 他）



金子みすゞさんの優しさあふれる作品が載っています。詩の読み比べをしたり、自分のリズムで読み味わったりしてみましょう。

カラフル

森絵都（文藝春秋）



死んだはずの僕は、再び「小林真」という名である家庭にホームステイすることになりました。この世での再挑戦は楽ではなかったけれど、家族や友人のいろんな面を知ることや悩みながらも成長し、人生はいろんな色で織り上げられていることに気がつきます。

彼の手は語りつく

パトリシア・ボラッコ（あすなる書房）



文字を読む黒人ピンクスト、文字を読めない白人シエルダン。戦争が二人を出合わせ、引き裂いてしまいます…。本当にあった二人の友情のお話です。

きみの友だち

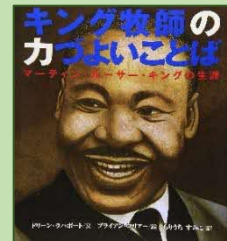
重松清（新潮社）



ほんとうの友達ってどんなだろう？足の不自由な恵美ちゃんを中心に、友情を考える連作の短編集です。

キング牧師の力づよいことば

ドリーン・ラバポート（国土社）



「わたしには夢がある」など、キング牧師の力強い言葉の数々と、その生涯を詩のような文と絵で描いた本です。

十五少年漂流記

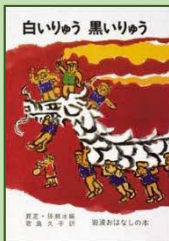
ジュール・ベルヌ（講談社 他）



激しい嵐の中、漂う帆船。15人の少年たちの流れ着いたのは無人島。少年たちは、知恵と勇気を持って、時にはけんかしながら協力し合い、努力し、工夫することの大切さを学び、成長します。

白いりゅう黒いりゅう

スン・チェンビン他（岩波書店）



中国の地方に伝わる6つのお話が載っています。少数民族が語り伝えてきたおもしろい話ばかりです。

白旗の少女

比嘉富子（講談社）



第二次大戦末期の沖縄戦。激しい銃撃戦の中、一人の少女が白旗を持って立った。びたりと銃撃がやんだ。そして…。

すき

谷川俊太郎 (理論社)



ひらがなと平易な言葉で書かれた詩ですが、読んでいくと様々な解釈ができます。大人になってもう一度読みたい詩です。

注文の多い料理店

宮沢賢治 (岩崎書店 他)



道にまよった二人の紳士が入った西洋料理店。「どなたさまもお入りください」と書かれた扉を開けると、また扉があり、たくさんの扉の注文にしたがっていくと…。

天と地を測った男 伊能忠敬

岡崎ひでか (くもん出版)



江戸時代、今のような測量技術のない中、驚くほど正確な日本地図を書き上げた伊能忠敬の生涯を描いています。

飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー (岩波書店)



寄宿学校で暮らす様々な境遇、個性を持った少年たち。共に暮らす中でお互いや先生との信頼を深めていきます。そんなある日、仲間が他の学校の生徒につかまってしまう…。

夏の庭

湯本香樹実 (徳間書店)



「死んだ人が見てみたい」小6仲良し3人組の少年たちは、町はずれの一人暮らしのおじさんを見張り始めます。ひと夏の心にしみ入る物語です。

西の魔女が死んだ

梨木香歩 (新潮社)



西の魔女とはまいのおばあちゃんのことです。2年前、中1の5月、まいは学校になじめずおばあちゃんと過ごした一か月余りのことを思い出しました。

バッテリー

あさのあつこ (教育画劇)



「たぶん、最高のバッテリーになる」物語の始まりは、中学校入学前の春休み。ピッチャーの巧はキャッチャーの豪と出会います。野球、思春期の悩み、友情を描く物語です。(全6巻)

ピアノはともだち

こうやまのりお (講談社)



生まれて間もなく、「生涯目が見えるようになることはない。」と宣告を受けた辻井伸行が豊かな色彩あふれるピアノ演奏ができるようになる過程に感動します。

冒険者たち

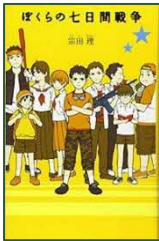
斎藤惇夫 (岩波書店)



ドブネズミのガンバと仲間となった15匹が船に乗り込み、イタチのノロイ一族と勇敢に戦う場面に引きずり込まれてしまいます。

ぼくらシリーズ

宗田理 (ポプラ社)



夏休みを前にした終業式の日、東京下町の中学校の1年2組の男子生徒たちが姿を消しました。廃工場に立てこもった彼らと、大人たちとの大戦争がはじまります！

マザー・テレサ

シャーロット・グレイ (偕成社)



貧しい人々のために働きたい…と、ひとりスラム街に飛び込んだシスター・テレサ。心の豊かさ、愛を求めた彼女の活動は世界へ…。

モモ

ミヒヤエル・エンデ (岩波書店)



ある町にやって来た少女モモ。住民たちと仲良く暮らしていたが、知らぬ間に町には時間どろぼうの男たちがいました。モモはみんなの時間を取り返せるのでしょうか？

森は生きている

富山和子 (講談社)



日本の国土は7割が森林。森林に恵まれたことで木材や水や土も豊かとなり、それらの恵みをたくさん受けて日本人は暮らしを築いてきたことに気づかされます。

ライト兄弟はなぜ飛べたのか

土佐幸子 (さ・え・ら書房)



本を読み進めながら自分でも紙飛行機を作ること、ライト兄弟がどのような工夫をして飛行機を作ったのかがよくわかる体験型の本です。

ルリールおじさん

いせひでこ (講談社)



お気に入りの本が壊れてしまった女の子と、その本を修理してくれたルリールおじさん。二人の交流を美しい絵で描きます。



気になる本はありましたか？

読み終わったら家族や友達に感想を伝えて、読書の輪を広げましょう！

市内で本の貸し出しをしている

学校の図書館・四街道市立図書館・四街道公民館・旭公民館・千代田公民館

でも探してみよう！